



鏡からみた古墳時代のはじまりと山陰

岩本 崇

- 【本日の内容】
 はじめに—古墳時代の開始をめぐる議論と鏡—
 1. 三角縁神獣鏡出現前夜の鏡
 2. 古墳時代における銅鏡流通の諸相
 3. 鏡からみた古墳時代のはじまりと山陰
 まとめ

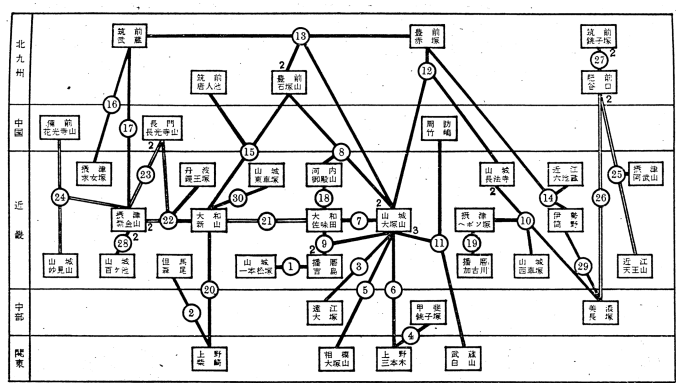
はじめに—古墳時代の開始をめぐる議論と鏡—

●古墳時代の開始（1）画期性重視

小林行雄1955：
 「同範鏡論」（三角縁神獣鏡）
 「伝世鏡論」（漢中期の鏡）

近藤義郎1977・1983：
 成立期前方後円墳の3つの特質
 (1) 鏡の多量副葬指向
 (2) 長大な割竹形木棺
 (3) 墳丘の前方後円墳という
 定型化とその巨大性

都出比呂志1979：
 地域を超えた首長間の政治的同盟関係の成立
 →古墳時代開始の社会契機
 その証左としての三角縁神獣鏡の同範鏡の分有関係



各地の古墳間における同範鏡の分有関係（一般鏡一仿製鏡）
 三角縁神獣鏡の同範鏡の分有関係 [小林1955]



3

● 箸墓古墳の画期性 全長約280m
 (弥生墓の最大60~80m 纏向型の100m規模を大きく刷新)
 画期性を重視して三角縁神獸鏡と箸墓古墳を一体的に評価 [辻田2007など]

突出部付丸形環濠墓
 纏向石塚墳丘墓(約93m)
 箸墓古墳(約280m)

突出部付丸形環濠墓・奈良県桜井市纏向石塚墳丘墓・同箸墓古墳(岸本, 2001/等尺, 1989/未定, 1975)
 箸墓古墳の画期性 [和田2019]
 箸墓古墳の赤色立体図 [桜井市2014]

4

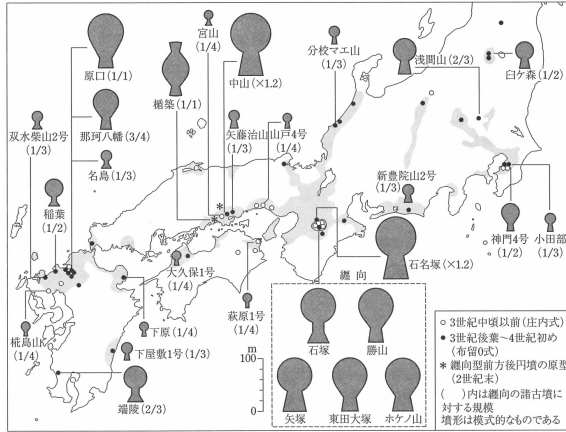
●古墳時代の開始（2）段階的出現論

寺澤 薫1984：定型化前方後円墳に先立つ纏向型前方後円墳（前方部が未発達）

岡村秀典1989・1999、福永伸哉2005・2010

：画文帯神獸鏡分配論 cf.漢鏡4～6期の西高東低分布との差異

→三角縁神獸鏡に先行した鏡の政治利用



纏向型前方後円墳の広がり [寺澤2000]

●何をもって古墳時代ととらえるか●



画文帯神獸鏡（奈良・ホケノ山古墳）

5

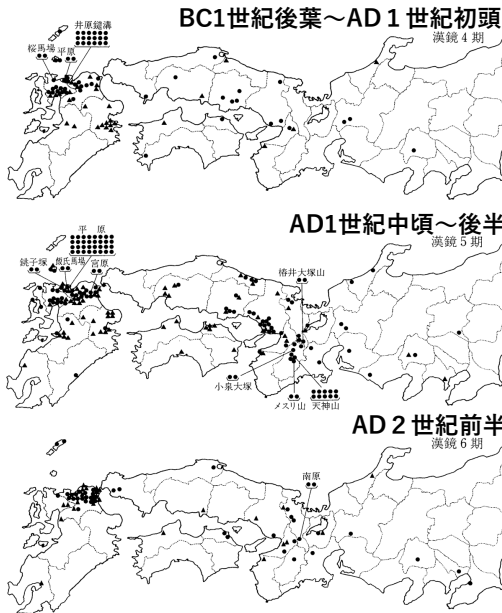


図25 漢鏡分布の変遷（漢鏡4～6期）●=完形鏡，▲=破鏡
漢鏡4～6期鏡の分布 [岡村1999]

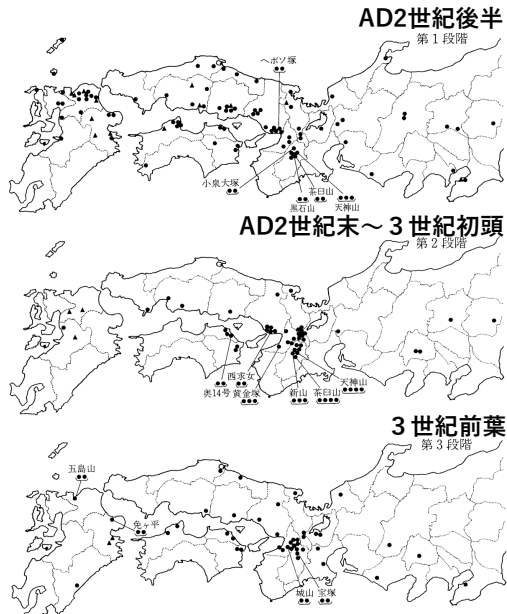


図26 漢鏡7期各段階の分布 ●=完形鏡，▲=破鏡
漢鏡7期の分布 [岡村1999]

6

1. 三角縁神獸鏡出現期前夜の鏡

●画期としての3世紀第2四半期

三角縁神獸鏡の以前と以後（漢／三国）で中国大陆における鏡の生産様相は変化
 日本列島において三角縁神獸鏡以降が古墳時代であるとみなす点は共通認識
 その時期は、三国鏡・三角縁神獸鏡の紀年銘から3世紀第2四半期以降
 現象面としては、日本列島における中心—周辺関係の形成が達成（近畿の卓越性）

※問題はこの中心—周辺関係が3世紀第2四半期を遡るのかどうか

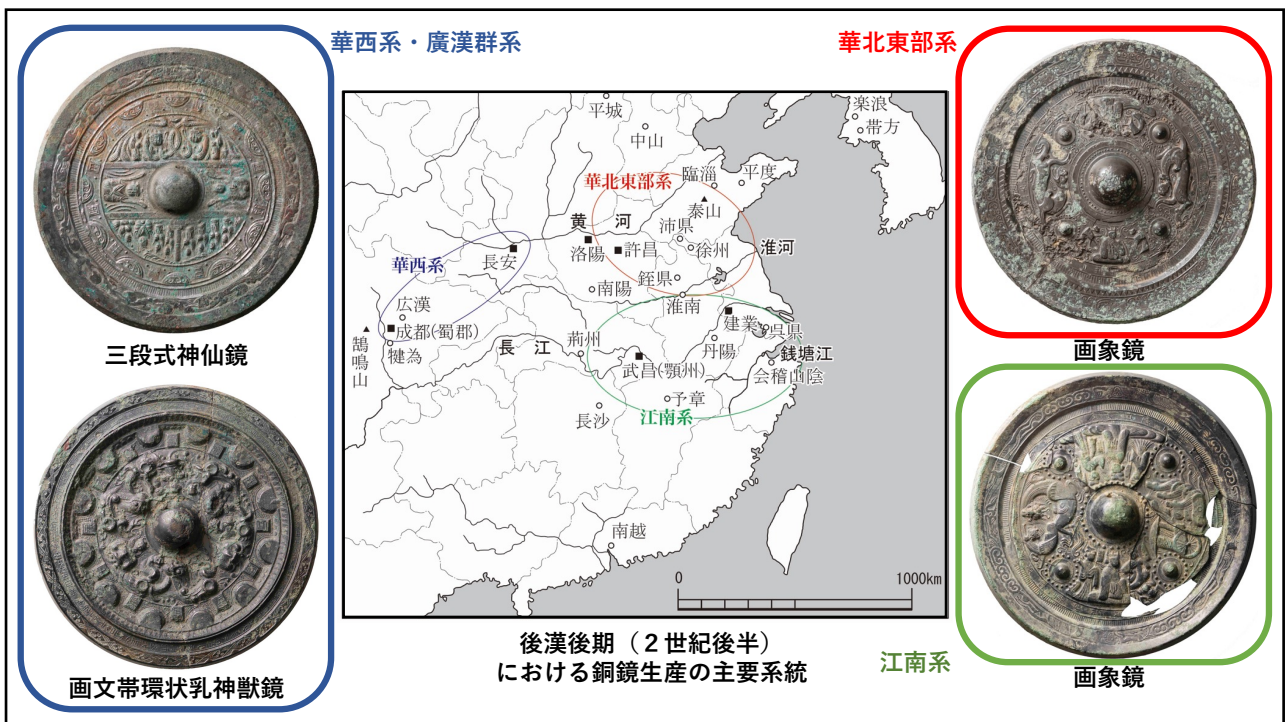
→三角縁神獸鏡直前までの鏡の列島への流入と列島での流通を解明する必要性

●漢鏡7期鏡（2世紀後半～3世紀前葉）と古墳時代開始をめぐる既往の議論

- ① 段階分配説 7-1期鏡は自由流通、7-2期鏡以降は近畿中部より分配 [岡村1999]
- ② 先行分配説 7-1・2期鏡が三角縁鏡に先行して面径差に応じて分配 [福永2005]
- ③ 流入後行説 7-1・7-2期鏡も三角縁神獸鏡と同時に近畿中部より分配 [辻田2007]

※上記諸説は古墳時代開始を三角縁鏡分配以後とする（7期鏡の伝世とその場所は？）
 鏡の流通変化と古墳時代開始をめぐる議論では漢鏡7期鏡の評価が重要
 →まずは鏡の実態把握が不可欠

7



8

華北東部系

後漢後期（2世紀末～3世紀初頃ごろ）
における銅鏡生産の主要系統

画文帯同向式神獸鏡 上方作系浮彫式獸帶鏡

画文対置式神獸鏡 重列式神獸鏡

江南系

9

華北東部系

後漢後期（3世紀前葉）における銅鏡生産の主要系統

画文帯同向式神獸鏡 斜縁神獸鏡

銘帯対置式神獸鏡

江南系

10

●漢鏡7期鏡 華北東部系鏡群 2世紀後半～3世紀初頭ごろ



画文帯同向式神獸鏡
(乳なし)

上方作系浮彫式獸帶鏡

飛禽鏡

11

●漢鏡7期鏡 華北東部系鏡群 2世紀末～3世紀前葉



画文帯同向式神獸鏡

画文帯求心式神獸鏡

七言句の銘文

四言句の銘文

吾作明竟自有紀
……

吾作明竟
幽凍三商
……

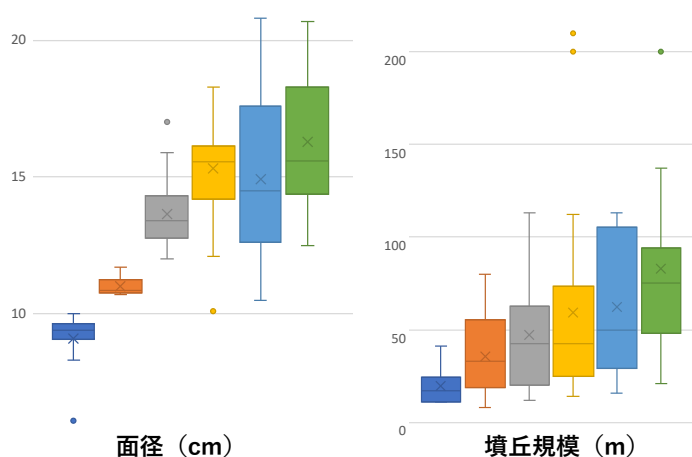
斜縁神獸鏡

12

- **時期的傾向**〔前提〕三角縁神獸鏡はすべて古墳時代に帰属
 - 飛禽鏡 16例中 1例（約6%）が弥生時代、12例（75%）が古墳前期
（前期中葉以降が6例：約38%）
 - 上方作系浮彫式獸帯鏡
69例中 2例（約3%）が弥生時代、50例（約72%）が古墳前期
（前期中葉以降が31例：約45%）
 - 画像鏡 20例中 3例（15%）が弥生時代、14例（70%）が古墳前期
（前期中葉以降が10例：50%）
 - 画文帯同向式・求心式神獸鏡
30例中 2例（約7%）が弥生時代、18例（60%）が古墳前期
（前期中葉以降が21例：70%）
 - 斜縁神獸鏡・四獸鏡
54例中 0例（0%）が弥生時代、33例（61%）が古墳前期
（前期中葉以降が26例：48%）
- 漢鏡7期鏡のほとんどは古墳時代に副葬・消費
- 弥生時代の漢鏡7期鏡は破鏡・破砕鏡、完形鏡副葬は古墳時代以降に顕在化
- 面径が大きい鏡ほど前期中葉以降に副葬される傾向
 - 入手契機が複数？、三角縁神獸鏡と同時か以降に分配された可能性
- 漢鏡7期鏡でも古相であるほど前期前半の副葬率が高い
 - 流入時期の早さを反映（三角縁神獸鏡の確実な先行例が僅少すぎる）

13

● **古墳出土鏡にみる面径と墳丘規模の相関関係**
列島の広域に分布&面径と墳丘規模の階層性
→ 7期鏡の戦略的搬入と一元的分配の可能性



左から、飛禽鏡、上方作系獸帯鏡（四像）、上方作系獸帯鏡（六像）、斜縁神獸鏡・四獸鏡、画像鏡、画文帯同向式・求心式神獸鏡

ほとんどが古墳からの出土かつ
完形鏡副葬
Cf.弥生遺跡からは破鏡か
破砕鏡で出土

→ **完形鏡副葬と古墳の高い親和性**
(本州以東の完形鏡副葬は古墳的)

→弥生終末期の列島一括搬入 &
「伝世」ののち、古墳時代に副葬
されたとみるよりは、**古墳時代にも一定数が流入し、近畿中央部を介して分配によって流通した**と考えるのが整合的

←→わずかな弥生時代例を積極的に評価しづらい
(限定的で広域の序列化はみえない)

14

2. 古墳時代における銅鏡流通の諸相

●鏡の分布と流通構造の変化

弥生時代は本州以東における鏡の分布が希薄（北部九州に偏在）
古墳時代以降に出現する三角縁神獸鏡の分布は近畿中央部中心
→弥生時代／古墳時代で鏡の流通構造に大きな転換

古墳時代の鏡は大型鏡の多量副葬が

近畿中央部の大型前方後円墳（社会の上位層）を中心に顕在化

例.桜井茶臼山古墳（204m）103面以上

椿井大塚山古墳（175m）36面以上

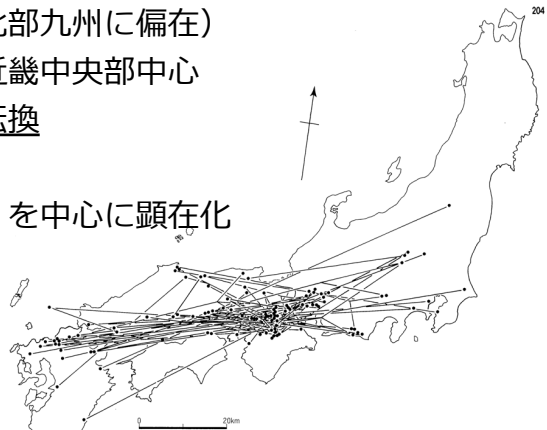
列島規模での鏡の副葬が波及

→王権による分配が流通構造に組み込まれる

◎列島規模の中心—周辺関係の形成にともない

社会の上部構造で一元的分配による流通が確立

近畿中央部の主導性は三角縁鏡の量的副葬以降に顕在化（最大の画期）



三角縁神獸鏡の分布にみる中心性
[新納1989]

15

●破鏡・超小型鏡の生成と流通

破鏡と超小型鏡（素文鏡・重圈文鏡・珠文鏡など倭鏡・超小型鏡でも7cm以下に顕著）

→非副葬例〔古墳時代の破鏡（左図下半）〕・小規模墳での単数面分有副葬（右図）

→被葬者の格差づけるアイテムとして必ずしも機能しない（補完的に利用されることはある）

◎地域社会での保有&緩やかな管理・保有の可能性（地域社会での交換も想定可能か）

◎破鏡・超小型鏡と小規模墳／大型鏡と有力首長墓：超小型鏡は大型鏡の代替品の側面もあり



破鏡となった古墳時代銅鏡

古墳群における超小型鏡の分有副葬

16

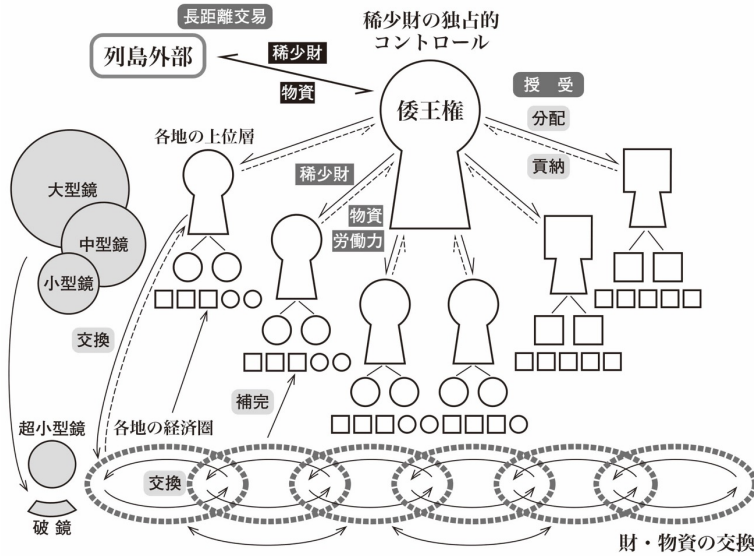
●鏡の流通にみる二重構造モデル

分配による拡散／交換による拡散 後者は弥生時代以前にも通有の流通構造
 流通形態が二重構造化した点が古墳時代の特質 → 財の流通の活性化を促進

大・中型鏡は上位層による独占



破鏡・超小型鏡の流通も大・中型鏡の分配を契機に各地で展開した可能性（破鏡は完形鏡の存在が前提）



17

3. 鏡からみた古墳時代のはじまりと山陰

●山陰における古墳出現過程の議論（近年に限定）

松山2000：①外表施設のない方形墳〔漢鏡・弥生倭鏡〕→②大型方墳〔三角縁鏡〕

岩本2014：①漢鏡の破鏡／②三角縁神獸鏡・完形漢鏡（①と②はあくまで様相差）

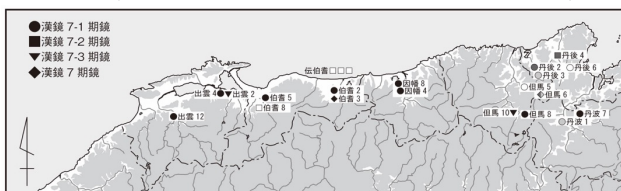
※四隅終焉以降の展開として、①→②の段階的変化なのか、①／②は様相差なのか

漢鏡4～6期（単数副葬の破鏡・破砕鏡が山陰に一定数）

三角縁神獸鏡・三国鏡（完形鏡副葬のみ、前期前半は単数副葬）



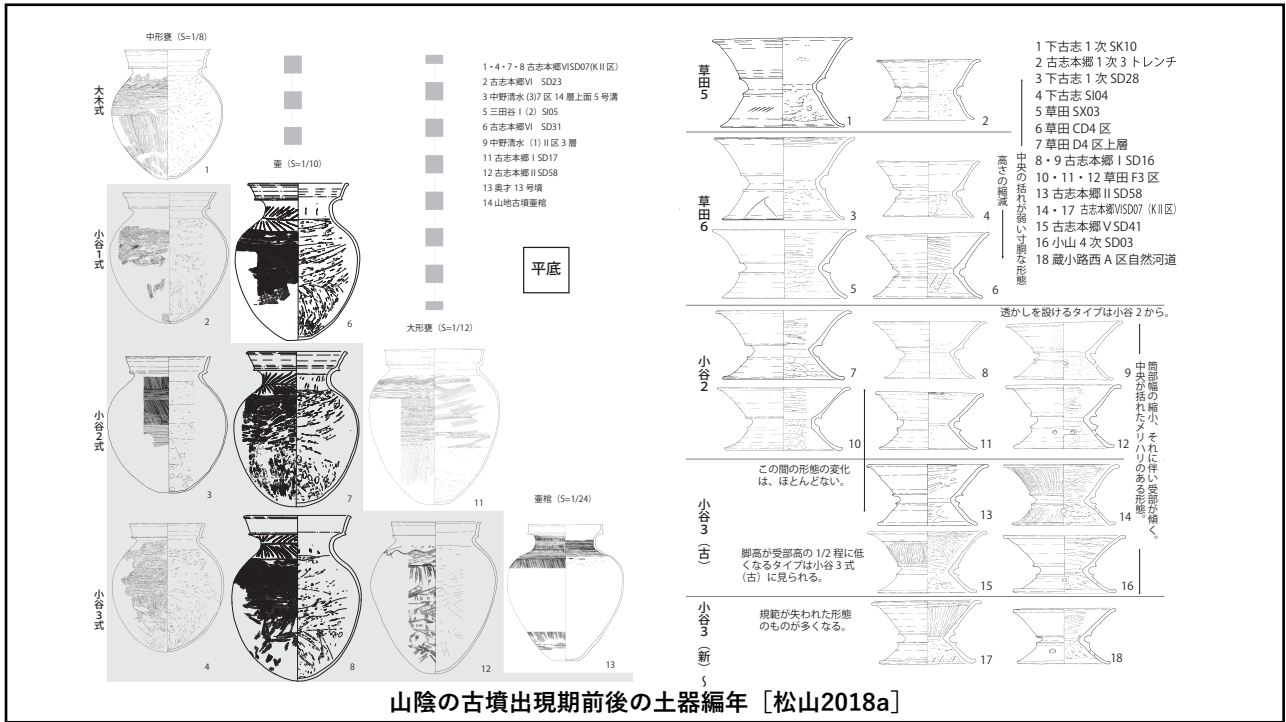
漢鏡7期（北近畿で破鏡・破砕鏡が一定数、山陰は完形鏡）



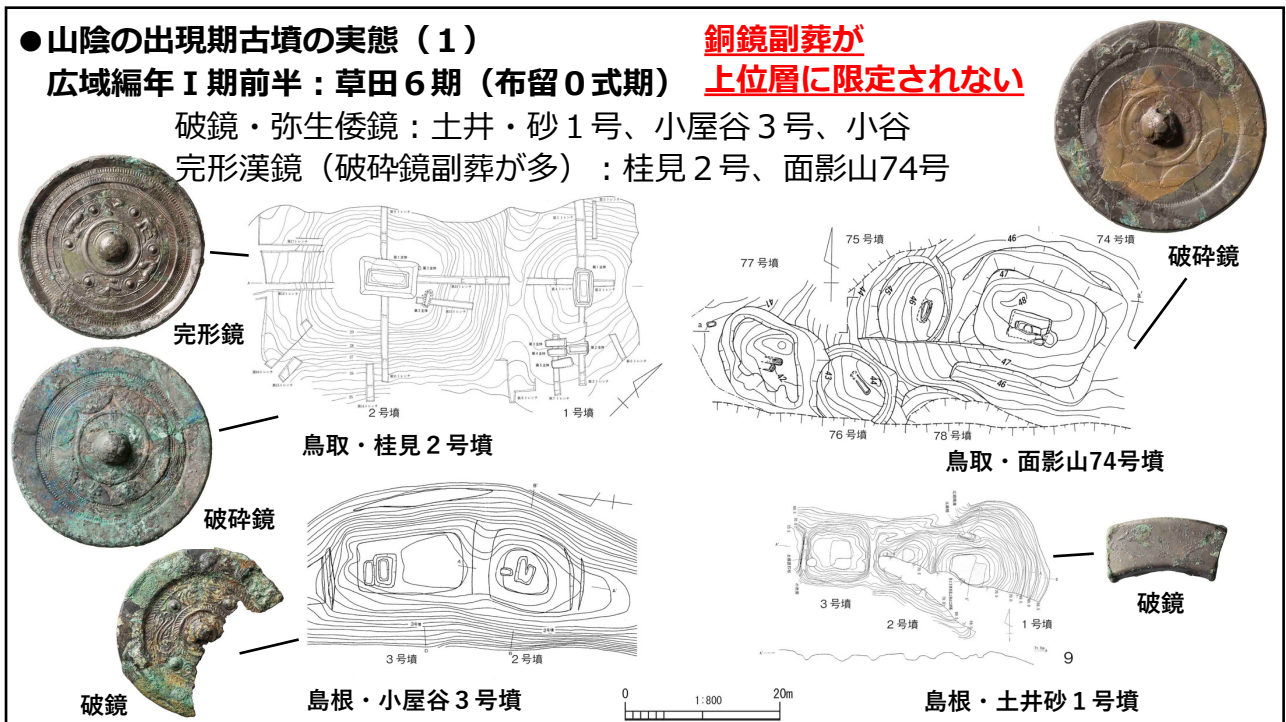
● 完形鏡副葬 ■ 完形鏡破砕副葬 □ 破鏡副葬 ● 破鏡破砕副葬
 ※白抜きは情報あるいは位置づけの根拠の不足している古墳

むしろ保有形態の推移としては
 破鏡・三角縁鏡（単数面副葬）から
 漢鏡7期鏡（複数面副葬）へ
 →②のなかでの時期差は想定難

18



19



20

●山陰の出現期古墳の実態（2）

広域編年 I 期後半：小谷2式期（布留1式期）

**銅鏡副葬の上位層
への波及が顕著に**

完形鏡：神原神社、森尾、大田南5号

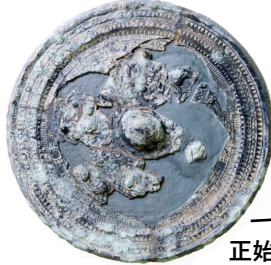
→三角縁神獸鏡・三国鏡の副葬開始 竪穴式石槨採用

古墳規模は大型化傾向、飛躍とするほど変化なし

近畿中央部的な要素が I 期前半より顕在化



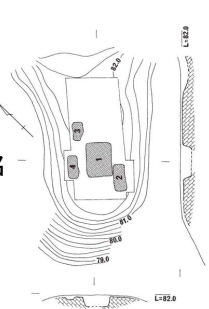
青龍三年銘



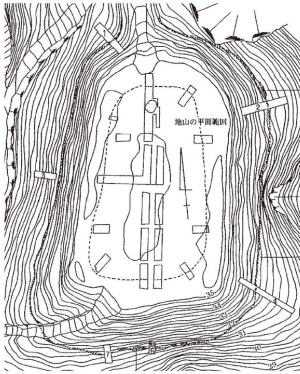
正始元年銘



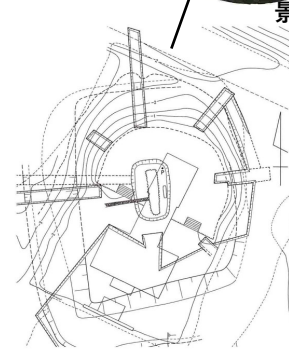
景初三年銘



京都・大田南5号墳



兵庫・森尾古墳



島根・神原神社古墳

21

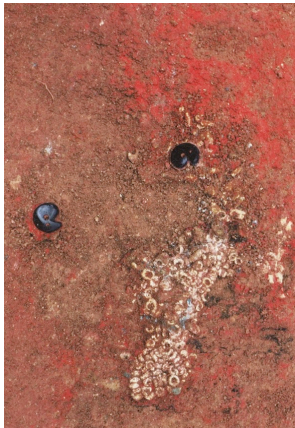
●山陰における古墳出現の画期性と重層性

四隅突出型墳丘墓の築造・稀少財としてのガラス製品重視（銅鏡副葬はない）

→大型方墳の築造・稀少財としての銅鏡重視 **この推移はきわめて画期的な変化**

一元的な分配という流通構造は四隅突出墓の終焉後に山陰では顕在化

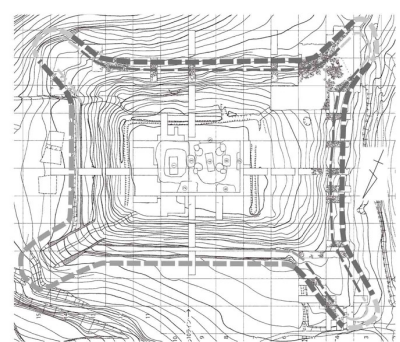
→列島規模の中心—周辺関係（広域秩序）の形成 = 古墳時代の開始と評価



西谷3号墓第1主体部の
ガラス製品



西谷9号墓



西谷3号墓

稀少財としての銅鏡は四隅突出墓の終焉に後出

22

まとめ

●鏡からみた古墳時代のはじまり

北部九州偏在の分布から列島広域への分布拡大へ（≡弥生時代→古墳時代の転換）
漢鏡 7 期鏡が三角縁鏡に先行して分配された可能性はあるが、安定的時期差ではない

漢鏡 7 期鏡をめぐる 3 説の折衷案が妥当（主体は古墳時代における分配）

→一元的分配による流通方式の成立≡三角縁神獸鏡の入手・分配にみる戦略性

漢鏡 7 期鏡を含む分配の階層性→上位層といってもやや広い階層をターゲット

●山陰における古墳時代のはじまり

出雲は四隅突出墓築造までと、それより後の間に画期：弥生時代／古墳時代の転換
山陰の最初期古墳のなかには破鏡・超小型鏡（交換にもとづく流通方式）の副葬例

→古墳出現に王権を媒介とした社会関係&地域的紐帯を軸とした社会関係が重層

重要なのは、こうした重層性をそなえながらも、墳墓築造と銅鏡副葬を指向した点

→弥生時代以来の地域的紐帯（経済的紐帯）+上位層を軸とした政治的紐帯

≡墳墓築造と銅鏡副葬を実現させた祭祀イデオロギー（上位層に限定されない）

この諸側面の重層化が古墳時代を象徴する社会変化と評価できる

23

〔おもな参考文献〕

- 池淵俊一2006「山陰における前期古墳の様相と課題—出雲を中心に—」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会2006年度愛媛大会実行委員会 pp.475-504
- 池淵俊一2007「山陰における方形区画墓の埋葬論と集団関係」『四隅突出型墳丘墓と弥生墓制の研究』鳥根県古代文化センター・鳥根県埋蔵文化財調査センター pp.117-143
- 岩本 崇2014「北近畿・山陰における古墳の出現」『博古研究』48 博古研究会 pp.1-31
- 岡村秀典1989「樗井大塚山古墳の意義」『樗井大塚山古墳と三角縁神獸鏡』京都大学文学部 pp.68-72
- 岡村秀典1992「浮彫式獸帯鏡と古墳出現期の社会」『出雲における古墳の出現を探る—松本古墳群シンポジウムの記録—』出雲考古学研究会 pp.98-115
- 岡村秀典1999『三角縁神獸鏡の時代』歴史文化ライブラリー66 吉川弘文館
- 岡村秀典2017『鏡が語る古代史』岩波新書1664 岩波書店
- 久住猛雄2007「『博多湾貿易』の成立と展開—古墳時代初頭前後の対外交渉機構—」『考古学研究』53-4 考古学研究会 pp.20-36
- 小林行雄1955「古墳の発生の歴史的意義」『史林』38-1号 史学研究会 pp.1-20
- 近藤義郎1977「前方後円墳の成立」『考古論集』慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集 同刊行会 pp.249-256
- 近藤義郎1983『前方後円墳の時代』岩波書店
- 桜井市立埋蔵文化財センター2014『HASHIHAKA—始まりの前方後円墳—』桜井市立埋蔵文化財センター展示解説書第40冊 桜井市文化財協会
- 下垣仁志2018『古墳時代の国家形成』吉川弘文館
- 辻田淳一郎2001「古墳時代開始期における中国鏡の流通形態とその画期」『古文化談叢』46 九州古文化研究会 pp.53-91
- 辻田淳一郎2005「破鏡の伝世と副葬—穿孔事例の観察から—」『史淵』142 九州大学大学院人文科学研究所 pp.1-39
- 辻田淳一郎2007『鏡と初期ヤマト政権』すいれん舎
- 都出比呂志1979「前方後円墳出現期の社会」『考古学研究』26-3 考古学研究会 pp.17-34
- 寺澤 薫1984「纏向遺跡と初期ヤマト政権」『福原考古学研究所論集』第6 創立45周年記念 吉川弘文館 pp.35-72
- 寺澤 薫2000『王権誕生』日本の歴史02 講談社
- 新納 泉1989「王と王の交渉」『古墳時代の王と民衆』古代史復元6 講談社 pp.145-161
- 福永伸哉2005『三角縁神獸鏡の研究』大阪大学出版会
- 福永伸哉2010「銅鏡の政治利用と古墳の出現」『日本考古学協会2010年度兵庫大会研究発表資料集』日本考古学協会2010年度兵庫大会実行委員会 pp.135-166
- 松山智弘2000a「小谷式再検討—出雲平野における新資料から—」『鳥根考古学誌』17 鳥根考古学協会 pp.99-130
- 松山智弘2000b「社日古墳群の位置づけとその評価」『社日古墳』県道松江国道工事事務所・鳥根県教育委員会pp.54-64
- 松山智弘2002「出雲における墳墓の変遷」『神原神社古墳』鳥根県加茂町教育委員会 pp.243-249
- 松山智弘2018a「山陰」『前期古墳編年を再考する』六一書房 pp.161-174
- 松山智弘2018b「山陰」『前期古墳編年を再考する』六一書房 pp.311-322
- 和田晴吾2019「前方後円墳とは何か」『前方後円墳 巨大古墳はなぜ造られたか』シリーズ古代史をひらく 岩波書店 pp.21-71

24